

私たち鹿児島商工会議所青年部(鹿児島YEG)は、地域社会の健全な発展や自企業の成長を目的として約30年にわたり活動する、青年経済人の団体です。

日本中が未曾有の危機に見舞われるこのコロナ禍においても、様々な事業の企画立案や、各種研修、地域の行事等への参加を通じて、会員間の交流や研鑽、地域経済や自企業の発展を目指し活動しています。

令和3年度は「Empower the Future ～情熱のタネをまこう～」をスローガンに掲げ、置かれた困難な状況に対し時代への先導者たる気概で果敢に立ち向かいながら、未来へと繋げる糧に思いを込めて参りました。

さて、急激なグローバル化の進行、労働生産人口の減少、地域の過疎化、加えてコロナ禍による地域経済の疲弊と、この県都鹿児島が抱える課題は山積しています。

そのような中、去る2021年11月、当会の例会事業として『賑わいを取り戻せ「ポストコロナの鹿児島を考える」』を開催しました。

下鶴隆央鹿児島市長をお招きし「ポストコロナを見据えた鹿児島市の稼ぐ観光について」と題したご講演を賜りました。

併せて、鹿児島市観光プロモーション課の皆様も交えて「自分たちが考えるにぎわい創出のアイデア」と題しグループディスカッションを行いました。

地域が抱える課題も大きい、描く未来や期待も大きい。そのような想いを抱かせる明るくも熱気あふれる場となりました。多くの学びやご協力を頂き、市長をはじめとする関係各位の皆様にご心より感謝を申し上げます。

ここに、活動の一つの集大成として政策提言書を策定し、私たちの住むこの鹿児島市のさらなる発展、まちづくりや人づくりの一翼を担わんと願うものであります。

鹿児島商工会議所 青年部

令和3年度 会長 上拾石 康博



## 本提言書の趣旨について

鹿児島YEGにおいて、令和元年よりスタートした活動が3年目を迎えるにあたり、今年度は「地域連携・提言室」として「会話するように提言しよう」をスローガンに、日常の中の問題点や改善点が自然と出せるような、団体内部での意識レベルの基盤づくりに努めることとした。換言すると、政策提言のハードルを下げることにより、会員が積極的に政策提言活動に参加する土壌を作りたいということであり、その取り掛かりとして鹿児島YEG初の風会議(公共団体との意見交換会)である、11月例会事業『賑わいを取り戻せ「ポストコロナの鹿児島を考える」』を開催した。

当該事業で会員から出た意見を今年度の政策提言書に集約することにより、風会議で体感した政策提言活動を「見える化」し、より身近な活動として自覚できるようにすることを目的の一つとするものである。

## 地域連携・提言室としての提言

### <目的> コロナ禍後のにぎわい創出

新型コロナウイルスによる活動自粛、経済活動の停滞が2年を超え、中小企業の体力は限界を既に超えているところである。

コロナ禍後の最大の目標はいち早い経済活動の再興であり、それを加速させる特効薬は物販・飲食・サービス業等、業種問わずコロナ禍後に人流を活性化させることである。そこで地域の内外含めた人流の活性化として、新たな「にぎわい創出」のアイデアを検討・実践し、地域の自治体と事業者が連携してコロナ禍後のスタートダッシュを切ることが出来るよう要請するものである。

以下、地域連携・提言室としての事業等の提言を行うとともに、11月例会事業で会員から集まった意見についても提言案として上程する。